

地域・NPO と連携したキャリア教育 ～ひばりのドリカムプラン～

山梨県立ひばりが丘高等学校

1 本校のキャリア教育における取り組み

平成22年度から生徒の自己肯定感、自己有用感の涵養を主眼に置いたキャリア教育プランとして、「ひばりのドリカムプラン」を立ち上げ、生徒・職員の意識の向上に努めてきた。

地域の外部人材を活用した体験活動や就労意識を高める取り組みを行っており、その主なものは以下の通りである。



活動名	内容【対象年次】	連携
創作授業	木工、革細工、切り絵、陶芸、絵手紙などの創作活動【全年次】	地元で活躍する専門家
探究活動	「うどん探究」【1年次】 「地域探究」【2年次】 「自己探究」【3・4年次】	うどん店経営者、富士山プロダクト、地域史の語り部、NPO法人「かえる舎」
キャリアガイダンス	様々な職種の説明会・体験【全年次】	専門学校講師・各企業講師
ジョブカフェ	就職に向けた面接練習やマナー講座、履歴書の書き方など【3・4年次】	ハローワーク、山梨労働局
野菜・花づくり	校内の空きスペースを活用した栽培【2年次】	園芸に詳しい地域のお年寄り
フラワーアレンジメント	生け花の体験【1年次】【夜間部】	地域文化「ひまわりの会」

2 ひばりのドリカムプラン

(1) 創作授業

ひばりのドリカムプランの中で最も特色ある取り組みが創作授業である。1学期末に5日間の日程で全校生徒が創作活動に取り組む。

1・2年次生は「個で作品を完成し、達成感を味わう」ことを狙いとし、革細工、切り絵、陶芸、絵手紙など、計7部門の中から選択して思い思いの創作に取り組む。

3年次生は「集団で協力し出来上がった作品が、他人のためになる喜びを味わう」ことを狙いとし、昨年度までは折り紙のコラージュを制作し、完成した作品は校内のショーケースに展示され、生徒・職員及び訪問者の目を楽しませてくれている。本年度は、新たな取り組みとして刻字による校歌レリーフを制作した。

4年次生は「集団で協力して完成した作品が、公共のためになる喜びを味わう」ことを狙いとし、木工作品の製作に取り組む。これまで、本棚やベンチの製作に取り組む。作品は地域の小中学校等に寄贈してきた。昨年度からはベンチを製作し、本校の隣に新設された民間の複合型福祉施設に寄贈した。



過去に製作した本棚



製作したベンチ

地域との連携を活用し、それぞれの狙いを達成している有意義な活動であると感じている。

(2) うどん部とうどん探究

① うどん部

平成22年から地元市民に愛される「吉田のうどん」の情報を全国に発信し、「讃岐うどんを越える」くらい有名にしようと、日々活動している。フリーペーパー『うどんナビ』発行、うどん店営業、イベント出店、商品開発など活動内容は多岐にわたる。

『うどんナビ』は、市内外に約55軒あるうどん店の情報を発信するため、毎年発行しており、一昨年で11年目を迎えた。年々、支援してくださる団体も増え、令和3年度のVol.11は8万5千部を発行した。製作にあたっては、うどん店1軒1軒に何度も足を運んで取材し、商品撮影を行うだけでなく、店主と対話を重ねた。部員がうどん店を取材した回数は延べ300回を越え、食べたうどんは1,000食を軽く上回っている。令和4年度以降は新型コロナウイルスの影響などもあり、新刊の発刊を中断しているが、県内外からの要望は多い。



イベントでの出店も部の活動として定着し、ヴァンフォーレ甲府公式戦や県民の日記念行事（富士吉田会場、甲府会場）など、県内外の



イベントでの出店の様子

方々と交流する機会となっている。吉田のうどんの PR 活動として始めた活動であるが、店舗営業を行う大変さを実感しながらも、食の提供を通してお客様からの感謝の言葉をいただく喜びを味わうことができ、部員達は達成感を得ている。

平成30年度に地元スーパーマーケットのご厚意で開店したうどん店であるが、現在、日曜日（ほぼ隔週）の11時から13時30分限定でうどん店を営業しており、毎回約100食提供しているが、県外からの来店やリピーターも多い。また、後継者不在により廃業した老舗うどん店の味を引き継ぎ数量限定で提供しているが、昔ながらの懐かしい味を求めて来店される方も数多い。

昨年度からは、さらなる社会貢献・地域貢献ができればと考え、数年かけて準備してきた「子ども食堂」の運営にも乗り出した。子ども達に楽しんでもらうことはもちろん、子育てに忙しいお母（父）さん方などに、ゆっくりと食事の時間を過ごしていただければと励んでいる。事前予約制となっており、部の SNS でお知らせしているが、市の子育て支援課にもご協力いただき、子育て世代のご家庭に周知している。

②うどん探究

うどん部の活動を生徒全体に広げようと、カリキュラム（総合的な探究の時間）に組み込むことを考え、昨年度から1年次生全員が取り組んでいる。独自に考案した教案をもとに、地元うどん店の経営者の方からのレクチャーにより、うどんを通して地域の産業や歴史を学んだり、うどん部顧問とうどん部員の指導のもと、うどん作りを体験したり、地元の食文化の継承につながる活動となっている。

（3）学校設定科目「ライフスキル」

①概要

本校では、令和2年度から「高校における通級による指導」実践研究校に指定され、学校設定科目「ライフスキル（Ⅰ・Ⅱ）」を開講し、カリキュラムの研究開発に取り組んでいる。

本校において、人間関係を構築する力やコミュニケーション力に課題のある生徒の数が増えていることから、（特別支援学校学習指導要領に示されている）自立活動の内容を参考にした授業を通して、自分の特性等を正しく理解し、心理的な安定や人間関係形成能力やコミュニケーション力を高め、環境への適応を円滑にすることを第一のねらいとしている。

また、学校内での適応だけでなく、卒業後の適切な就労も視野に入れ、必要に応じて外部機関との連携を図っている。就労に向けて長期休業中にインターンシップを設定し、実際に働く経験を通して、企業からの評価を受けることで、生徒は自らの職業適性を知ることができる。事前・事後学習では、事前の挨拶、お礼状の作成といった活動を行い、社会で活かすことができる力やマナーの獲得を目指している。

②企業との連携

「ライフスキルⅡ」のインターンシップは、地元企業の厚意と協力により実施している。職場体験をさせていただいた企業の指導員から評価をいただくことで、自覚していない課題とも向き合い、より就労への意識を高め、意欲をもたせることが可能となっている。授業で学んだ知識を現場で生かし、「働く」ために必要なスキルを事前・事後指導を通して実感させることによって、進路指導に活かしている。特に、各企業には、「雇用者としての視点での評価」をお願いし、企業にその意図を理解していただいている。率直かつ的確な評価をいただくことで、生徒にとっては、自己評価と他者評価の相違を認識する貴重な機会となっている。企業からの評価は、「働く」ために必要なスキル・心構えの重要性を実感できる事後指導として活用することが可能となっている。



インターンシップ（夏季休業中）



インターンシップ（冬季休業中）

③就労につながる取り組み

「ライフスキルⅡ」は、就労体験だけでなく、受講生徒への進路指導、その先にある進路実現へ結び付けることを目標としている。得手不得手、向き不向きを含め、特性や就労についての情報を生徒自身が認識し自己の進路を考えるには、多様な職種におけるインターンシップの場が必要である。そのためには、協力してくださる企業や福祉事業所などの開拓・確保が今後の課題となっている。

また、高校のインターンシップは、一般的に3～5日程度のため、継続的に働くことのイメージをもつことが困難である。インターンシップが単なる就労体験にとどまらず、その後の生活や進路に対する考えにも効果が出るように、事前・事後学習を充実させていく必要がある。その中で、受講生徒が自分自身の特性について理解を深めるために必要な支援を今後とも考えていく。

3 終わりに

本校では、生徒たちが充実した高校生活を送り、成長し、卒業後に社会で自立していけるよう、日々の教育活動を実践している。より充実したキャリア教育が実践できているのは、地域の方々の献身的なご協力のお陰であり、心から感謝している。先輩方が築き上げた数多くの連携を大切にしながらも、新たな連携を模索し、教師も生徒も、常に新鮮な気持ちで意欲をもって取り組める教育活動を今後も展開していきたい。